

航空機MROのサプライチェーン強化

■成田空港・周辺地域中心に計画着々と

航空機の整備・修理・オーバーホール（MRO）需要に対応するための準備・計画が着々と進められている。世界的に国際航空需要の増加が予測される中、航空機の製造・MROの重要性は高まっている。日本で一貫した整備体制とサプライチェーン確立を目指すことを目的とした関東経済産業局による「民間航空機MRO戦略産業クラスター計画」が策定・公表された。機能強化を控える成田空港および周辺地域にMRO拠点を構築するものだ。さらに千葉県「地域産業成長プラン」に含まれるMRO産業集積構想が、国の「地域産業クラスター計画」としての事前確認を受けている。

大型エンジン試運転施設も

地域未来戦略に関する関係副大臣等会議が7月31日に開催され、地域ごとに戦略産業クラスター形成を目指す事業案件に、関東経済産業局のMRO計画が盛り込まれた。成田空港および周辺地域（成田市、多古町、芝山町）を対象としている。成田空港の滑走路延伸・新設などを踏まえたもので「現行の年間発着容量34万回から50万回への拡大に向けた機能強化が進行しており、成田空港を利用する航空機の増加が見込まれる」と指摘。「MRO産業の対象となる航空機やその部品がこれまで以上に成田空港に集まり、整備需要の取り込み機会が拡大する」とした。

成田空港の整備地区で国内初の航空機大型エンジン試運転施設の設置に向けた計画があることにも言及。「成田空港周辺地域は、航空機エンジン・装備品などのMRO産業の集積拠点としての高いポテンシャルがある」と指摘した。併せて「成田空港では、航空需要のさらなる拡大や空港機能強化を見据え、空港敷地を最大限に活用するための整備地区の再編・DX（デジタルトランスフォーメーション）などによる機能高度化が不可欠となっている」ことを重視。戦略産業クラスター計画としての投資が空港イ

ンフラの基盤を再構築し、日本の航空輸送の安定的運用、持続的発展に貢献するとしている。

空港内の整備地区の再編投資を進めるとともに、中核事業として航空機大型エンジン試運転施設の設置などを段階的に進める。こうした一連の投資によって、現状は海外の整備拠点を利用せざるを得ないエンジンをはじめとするMROについて「国内における確固たるサプライチェーンの構築に資するとともに、今後、拡大する整備需要の国内への取り込みにつながる」とした。

航空機産業を集積

千葉県によると、国内MRO産業ではエンジンMROにおける整備台数の半数程度が、エンジン分解・モジュール整備・部品修理・エンジン組み立て・試運転・検査の工程の一部を海外に依存しているという。こうした背景のもとで、国内でサプライチェーンが完結できず、リードタイムの長期化などの課題が生じている。千葉県の航空宇宙産業領域の計画が現在、「地域産業クラスター計画」の一環として、国による事前確認を受けている。成田空港周辺9市町（成田市、富里市、香取市、山武市、栄町、多古町、神崎町、芝山町、横芝光町）を「クラスター形成の核となる区域」と想定。成田空港の

整備地区に近接し、航空機産業の集積に適している芝山町岩山地区では、産業用地の造成が進められている。

千葉県は「この産業用地は、成田空港の整備地区との近接性を生かして、整備リードタイムの短縮が可能となるMRO産業のほか、MROを起点として、その他航空機産業の集積を図る適地と考えられる」と指摘。成田空港周辺でMRO産業基盤を強化するとともに、MROを起点に、産業領域をエンジン開発事業をはじめとする航空機産業に広げることで、日本の航空機産業の国際競争力の維持・強化につなげる方針だ。

新たな経済圏を形成

千葉県と成田国際空港会社（NAA）で構成される「NRTエリアデザインセンター」は25年6月、成田空港「エアポートシティ」構想（SORATO NRT）を策定した。成田空港および周辺地域で、世界の成長を取り込み、日本経済の活性化と地域の持続的な発展をけん引する「未来志向型のエアポートシティ」を目指す内容だ。

産業・イノベーション分野では、将来性の高い航空機MRO、ライフサイエンス、先端ロジスティクス、グローバル研究開発拠点などの高付加価値産業を誘導。空港を軸とした新たな経済圏を形成する方針を盛り込んだ。「航空宇宙産業の集積」の一環として、「技術力と品質管理で国際的に評価が高い日本の航空機MRO分野で、成田がアジアのMRO拠点としての地位を築く」と提起。次世代航空機やエンジン開発の研究・開発拠点の形成を目指すとともに、航空機部品の製造・供給・整備を一体で担うクラスターを構築することで、グローバルサプライチェーンの強靱化に貢献することを目指している。